

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 124人

② 算数 124人

5 留意事項

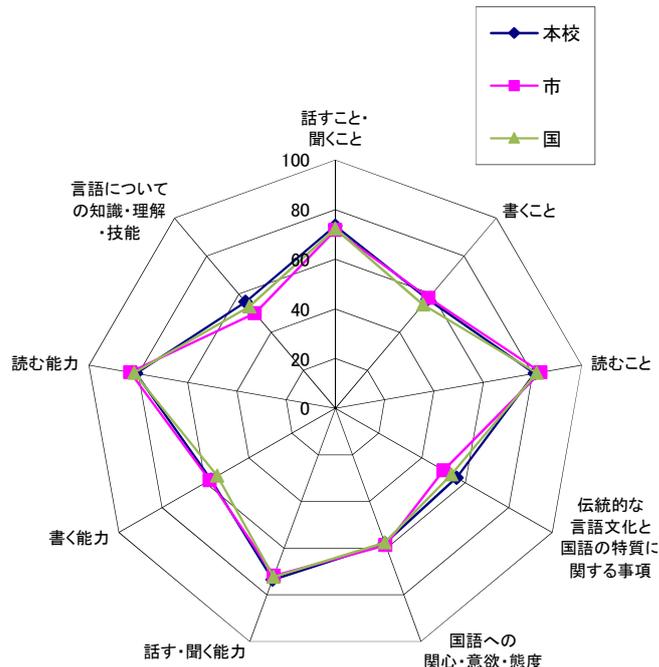
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.5	71.8	72.3
	書くこと	57.4	58.0	54.5
	読むこと	80.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.9	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	57.9	58.7	57.6
	話す・聞く能力	73.5	71.8	72.3
	書く能力	57.4	58.0	54.5
	読む能力	80.9	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	55.9	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

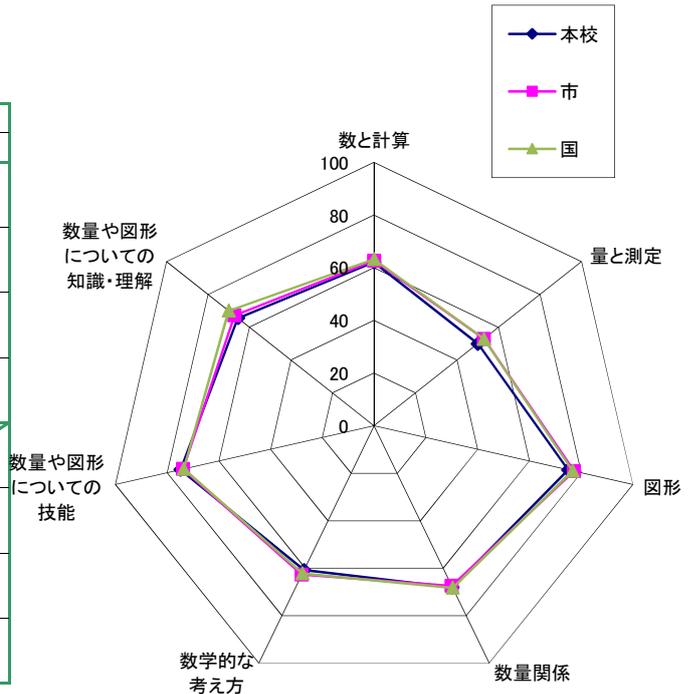
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする設問や、目的に応じて質問を工夫する設問では、正答率がやや高い。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる記述式の設問では、正答率はやや高いが、無回答率が高い。</p>	<p>・今後も、日常の学校生活全般で、話し手の意見をよく聞き取り、その意見に関係する自分の考えを自分の言葉で具体的に話すことができるような場面を多く設けていく。</p> <p>・授業中だけでなく、普段の生活の中でも話をしっかりと聞く習慣を身に付けさせ、話を聞くことの大切さを、引き続き指導していく。</p>
書くこと	<p>○図表やグラフなどを用いた目的を捉える設問では、正答率が高い。</p> <p>●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く設問では、正答率がやや低く、無回答率もやや高い。</p>	<p>・基本的な文章の書き方について指導するとともに、書くことへの抵抗感を無くしていくために、自分の考えなどを書く活動を多く取り入れて習慣化していく。</p> <p>・記述式の解答の仕方に慣れていないことが考えられる。文字数などの条件を満たし、目的に応じて自分の考えを書くことができるようにする。</p>
読むこと	<p>○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む設問では、正答率は平均と同等である。</p> <p>●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む設問では、正答率が低い。</p>	<p>・朝の読書などの読書指導や音読指導を継続して行う。多くの読み物に触れさせることで、場面の移り変わりや心情を捉える力の向上を図っていく。</p> <p>・物語文の学習では、読後の思いや自分の考えをまとめる力をつけるため、感想を書いたり発表したりする活動を重視する。</p> <p>・NIE実践(新聞を使った活動)を通して、記事の内容を読み取り、自分の考えをもつ力を育てる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問では、正答率が高い。</p> <p>○●漢字を文の中で正しく使うことを求める設問では、漢字によって正答率にばらつきがあるが、全体的に正答率が高い。</p>	<p>・既習の漢字がしっかりと定着するよう、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習させる。</p> <p>・漢字を送り仮名や熟語、文章にして練習するなど、語彙を増やし、生活の中で使える力が身につくようにする。国語の授業だけでなく日常生活の中でも取り上げ、継続的に指導していく。</p>

宇都宮市立五代小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.1	62.7	63.2
	量と測定	50.0	52.9	52.9
	図形	75.0	77.3	76.7
	数量関係	68.1	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	60.8	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	74.8	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	65.6	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを棒グラフから読み取る設問の正答率が高い。</p> <p>●減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるどのようになるか記述する設問の正答率が低く、無回答率が高い。</p> <p>●$1800 \div 6$は、何m分の代金を求めている式と言えるのかを選ぶ設問の正答率が低い。</p>	<p>・問題形式が短答式の正答率はとりわけ低いわけではないものの、記述式の正答率は全体的に低めになっているため、問題を解く際に、どうしてそのような考え方をしたのかを書かせるなど、根拠を明確にして答えを導く力をつけられるようにする。</p> <p>・立式する際に、式の意味を理解できているか言葉や線分図で説明するなどして確認し、根拠をもって立式できるよう指導していく。</p>
量と測定	<p>○残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する設問の正答率が高かった。</p> <p>●減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く設問の正答率が低く、無回答率が高い。</p>	<p>・図形の面積の求め方の説明をできるように、順序立てて考えをまとめたり話したりする練習を継続して行っていく。</p> <p>・実生活に結びつくような課題を設定し、解決できた喜びを実感できるような授業を設定する。</p>
図形	<p>●長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ設問と、二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせて作ることができる形を選ぶ設問の正答率が栃木県と同程度だった。</p>	<p>・日常生活の中で図形を見出したり、図形と図形を関連付けたりして、図形のもつ特徴や性質に関心がもてるような活動を多く取り入れていく。</p> <p>・面や点、角など図形について視覚的に理解できるように、模型やICTを活用した授業を行う。</p>
数量関係	<p>○1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフから分かることを選ぶ設問の正答率が高い。</p> <p>○だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ設問の正答率が高い。</p>	<p>・文章の問題に粘り強く取り組み、問題の意図を正しく理解する力が身につくよう、練習問題等に多く取り組ませる。</p> <p>・資料の特徴や傾向を関連図けて読み取ることができるように、算数に限らず他教科でも資料の見方の練習を取り入れていく。</p>

宇都宮市立五代小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に、肯定的回答をした児童は92.7%であり、ほとんどの児童が朝食をとっていることが分かる。しかし、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童も少数ではあるが、7.3%いる。朝食の必要性について引き続き指導し、家庭にも呼びかけていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に、肯定的回答をした児童は95.1%であり、県・全国の平均を大きく上回っている。「当てはまらない」と答えた児童はおらず、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童が4.9%である。今後も児童のよいところを認め、自己肯定感を高める指導を継続していきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしますか」の質問の肯定的回答率が高い。家の人が児童の学校での話を聞き、受け止めてくれていることが感じられる。今後も、学校での学習や生活の様子に関心をもって話題にしていだけるよう、家庭に向けて行事や学習内容の話題を提供したり、児童の感想を持ち帰らせたりするなどしていきたい。

●「読書は好きですか」や「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」等の本に関する質問への肯定的回答率が県・全国の平均と比べてもかなり低い。本読むことの大切さを児童や保護者に伝えるとともに、好きになれる本に出会えるよう、様々な本に触れあう機会を増やしていく。

●全体的にどの質問においても、肯定的回答率は、県・全国と同程度のものであるが、内訳をみると、「当てはまる」より「どちらかといえば当てはまる」と答えている割合が多い。中間層が多いので、全体的に底上げできるよう指導していきたい。

宇都宮市立五代小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業形態の工夫	5・6年の算数では、「少人数指導」「習熟度別学習」「TT」など、単元内容に合わせて授業形態を変えている。また、習熟度別学習では、協働学習など、思考力・表現力を高められるような活動を多く実施している。	算数では、平均正答率を下回っている設問もあるが、「算数で学習したことは将来役に立つ」「算数の勉強は大切」と感じている児童は多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語・算数とも、記述式の設問での正答率が低い傾向にあり、無答率も高い。	○書く活動の推進 ○話し合い活動のさらなる推進	・自分の考えや要点を整理して書いたり、指定された条件を満たして文章を書く経験を積ませる。 ・根拠を明確にして自分の考えをまとめ、書いたり話したりする活動を多く取り入れる。